

2012 年度 小委員会活動成果報告

(2013 年 2 月 10 日作成)

小委員会名	バリアフリーデザイン小委員会	主 査 名：岩田三千子 就任年月：2009 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (環境設計運営委員会)	委員長名：佐土原 聡 主 査 名：福田展淳
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2013 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>感覚機能と建築空間との関係について、環境工学的なアプローチを深め、広く社会に啓発することを活動の目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2009 年度；4 回の委員会を開催して委員の研究内容についての情報交換を行うほか、研究協議会 1 回，見学会 1 回を企画運営する。 ・2010 年度；次年度を見据えて年 4 回の委員会を開催し、委員の研究内容についての情報交換を行うほか，見学会、公開研究会などを企画運営する。 ・2011 年度；年 4 回の委員会を開催し、福祉施設の環境に関するアンケート調査を行い、データを整理する。 ・2012 年度以降；年 4 回の委員会を開催し、福祉施設の環境に関するアンケート調査結果を分析し、その内容を踏まえてシンポジウムまたは研究会を企画して、様々な分野の研究者と意見交換する。 	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無： 無	
	主査：岩田三千子 (摂南大学) 幹事：安部信行 (八戸工業大学) 委員：延原理恵 (京都教育大学)、土川忠浩 (兵庫県立大学)、土田義郎 (金沢工業大学)、村上泰浩 (崇城大学)、堀越哲美 (名古屋工業大学)、二井るり子 (奈良女子大学)	
設置 WG (WG 名：目的)		
2012 年度予算	169,000 円	ホームページ公開の有無： 有 委員会 HP アドレス：http://news-sv.ajj.or.jp/kankyo/s18/

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	1. シンポジウム「人の流れと環境デザイン」 参加者数 42 名 (資料名) 同上 2. シンポジウム「福祉施設の環境バリアフリーを考える」 参加者数 20 名 (資料名) 同上
大会研究集会	

<p>対外的意見表明・パブリックコメント等</p>	
<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 4回の小委員会を開催し、障がい者、子ども、高齢者などを対象とした建築環境工学分野のバリアフリーデザインに関連する課題について、メンバー各自が更なる研究調査活動を行った。その結果、各メンバーよりそれらの成果について重要参考資料などが提出され継続的に情報交換を行うことができた。 2. 2012年度は大阪において、音環境シミュレーション施設（竹中工務店・大阪本店内）、LED照明展示場（東芝ライテック「CO-LABO」）、葬儀場（千里会館）の3件の見学会を実施した。いずれも、ユニバーサルデザインの観点から情報収集し、意見交換を行った。 3. 上記の見学会とは別に、5月に竣工したJR大阪駅の見学会を実施した。「ステーションシティ」という新たな建築、まちづくりの手法について、設計者、および施主、建築企画分野の専門家などの意見を聞く機会を得た。建築環境工学的な配慮については、企画設計段階で十分であるとは思えず、空間が出来た後に問題点を見つけることが多い。予測できるはずのこのような問題点については障がい者や高齢者などに対する部分にとどまらないので、今後、建築計画分野との共同研究・企画・設計を行う機会を求める必要があることを再認識するとともに、今後の活動の方針と展開を見出すことができた。 4. 大阪府下の福祉施設の住環境についてのアンケート調査結果を分析し、障がい者や高齢者、こどもなどを対象とした福祉住環境の構成要素を明らかにするとともに、環境工学分野の設計基準、評価基準の指標作成を目的とする新たな研究活動への第一歩を踏み出す準備を進めている。 5. 建築計画委員会の建築人間工学小委員会との共催によるシンポジウム「人の流れと環境のデザイン」、および独自開催によるシンポジウム「福祉施設の環境バリアフリーを考える」の計2回のシンポジウムを開催して、設計者、利用者、管理者、学会および企業の研究者などとの意見交換を行った。ユニバーサルデザインの観点からの建築環境工学分野のアプローチの重要性についての啓発活動も行うことができた。
<p>委員会活動の問題点 ・課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 昨今は本務先業務の多忙な委員が多く、ネットワーク拡大をねらって公開研究会等の企画実施することが難しく、日常的な意見交換も不十分になりがちである。 2. 環境工学分野の現場での問題点を明らかにする必要があるが、福祉施設のアンケート調査を実施したが、現場の測定を同時に行って分析を加えるなど、今後の課題である。

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学本委員会用 自己評価欄

2012 年度 小委員会活動 自己評価 (最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A B C D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>本委員会の特色の一つとして、音、光、熱、空気、建築計画の研究者が参加して分野の枠にこだわらず横断的に活動を行うことがある。本委員会の設置期間内には、その特色を生かした内容で積極的に活動し、次のような成果を得ることができた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 毎年度4回以上の委員会を開催し、委員の研究内容についての情報交換を活発に行った。委員の出席率が高く評価に値する。 2. 2009年度には、建築学会大会において研究協議会「高齢社会の環境・設備—ユニバーサル環境デザインに向けて」を企画運営した。環境工学的な視点からのバリアフリーデザインやユニバーサルデザインの重要性について、学会関係者をはじめ広く啓発活動を行うことができた。 3. 期間内に公開研究会1回、および見学会を計7回開催した。建築設計者、建築計画分野の研究者、および一般の参加を得て、建築デザインにおける環境工学的なアプローチの重要性についての啓発活動を行った。同時に現場での様々な状況について情報収集を行うことができた。 4. 2011年度には、委員が共同して福祉施設の環境に関するアンケート調査を行い、2012年度建築学会大会や他学会においてもその成果を発表した。さらに継続して分析を深める予定であり、今後の研究課題の抽出にもつながる成果を得られたことは評価に値する。これらを通じて、学会関係者のみならず利用者や設計者、企業などに対しても情報提供が行えることが予想される。 5. 2012年度には、建築計画分野の委員会との共催によるシンポジウム「人の流れと環境のデザイン」、およびシンポジウム「福祉施設の環境バリアフリーを考える」の計2回のシンポジウムを開催した。建築設計者、計画分野の研究者、企業の研究者さらには利用者、管理者とも意見交換を行うことができたことは、建築学会に属する委員会として、重要な役割を果たすことができたと考えられ、評価に値する。

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。